

令和5年度 全国学力・学習状況調査における 本校の結果分析と今後の学習指導の取組について

新宿区立淀橋第四小学校

1 全国学力・学習状況調査について

全国の小学6年生と中学3年生を対象として、学力・学習状況調査が行われました。その結果を受けて、本校児童の結果のまとめと、今後の取組をお知らせします。

2 結果の分析と今後の取組（○良かった点、△課題、→改善のための本校の取組）

実施教科	
国語	○学習指導要領の内容「情報の扱い方に関する事項」について、平均正答率が全国、東京都を上回っている。 △全体の平均正答率が65%で全国、東京都の平均正答率を下回っている。 →「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「読むこと」に課題があることが分かる。これらの力を高めるために、読書習慣を身に付けると共に、漢字の知識を定着させることに力を入れていく。朝読書の時間以外にも積極的に図書室を活用して本にたくさん触れたり、日々の学習で既習漢字を使うよう意識をしたり、宿題等で既習漢字の復習をしたりしていく。 △問題形式を見ると、記述式で解答する問題の平均正答率が45.8%と低く、全国、東京都の平均正答率を下回っている。また、記述式で回答する問題の無回答率が16%と高い割合になっている。 →日常の授業でも自分の言葉でまとめることに苦手意識をもつ児童が多い。教師が効果的な文章の型を示し、学習感想や学習のまとめ等で自分が考えたことや感じたことを文章化させる。また、相互にやりとりをする活動を取り入れ、よりよい文章に触れていけるようにする。 △学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかという問題において、全国、東京都の平均正答率を下回っている。 →当該学年に配当されている漢字を文や文章の中で使うよう、月に一回程度既習漢字を使った文章を書く機会を設ける。また、同音異義語に注意するなど、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くよう指導を続ける。

算数	○全体の平均正答率が 65%と全国の平均正答率を上回っている。 △東京都より平均正答率が低かったのが、比例の関係を活用した記述問題である。 →表を用いて変化や対応の規則性などを見いだすことは、考察の基礎となる。比例の関係は、算数の様々な単元で学ぶことができる。その場面では、表や数直線を通して比例の関係を使うよさを感じさせ、児童自身で日常的に活用できるようにする。また、規則性と知りたい数量との関係を捉え、筋道を立てて考え、求めたい数量についての結果を導いていけるような問題の復習を宿題等で取り入れていく。 △東京都より平均正答率が低かったのが、加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる問題である。 →四則の混合した式や（ ）を用いた式は、一つの数量を表していることを確実に理解させる。そのために、計算のきまりや順序を再確認したり、視覚的に理解できるようにしたりする授業を増やし、習熟を図っていく。
習慣や学校環境に関する 質問紙調査	○「人の役に立つ人間になりたいと思う。」と回答している児童の割合が 98%と高く、全国、東京都の平均を上回っている。 ○「自分にはよいところがある。」と感じている児童が 84%以上と肯定的な意見をもっており、自己肯定感が高い。 △「読書が好き」と回答した児童の割合が 72%、「読書が嫌い、あまり好きではない」と回答した児童の割合が 28%であった。約 3 割の児童が好んで読書をしていない。 →読書が、自分の考えを広げることに気付かせたい。読書をすることで、自分を支える言葉を見付けたり、新しい考えを発見したりすることを伝え、読書の意義を感じさせる。また、友達や大人とお勧めの本を共有する機会を設けたり、親子でなかよし読書をしたり、読書に慣れ親しむ環境を学校でも家庭でも育てていく。

3 結果の返却とご家庭での活用について

9月に個人票とあわせて、問題用紙を返却しました。ぜひ、総合点だけでなく、教科別、単元別に問題と結果を照合してご覧ください。児童自身で課題を見付け、自主的な学習にも活用してください。

特に、正答率が低い単元があれば、その単元について学習した際の教科書やノート等を使って復習を行い、さらに、正答率の高かった単元については、発展的な課題に取り組むのもよいでしょう。

本校全体の児童の課題の一つとして、定着のための反復学習をとる時間の少なさが挙げられます。今回の学力調査の結果を基に、継続した家庭学習につなげてください。